

## 会計実務検定試験が目指すもの

本検定試験は、現代の金融化された世界に生きる会計的センスと能力の育成を目的としています。わが国の生き方として、“商業立国”と言われることがあります。本試験はこれを意識しています。商業高校および全商簿記検定はこれまでも商業立国の一翼を担ってきました。しかしながら、経済の国際化のもと、商業教育の目標は、今現在の合理的な商業人の育成に留まらず、将来に向かって金融資本主義化される世界を生き抜ける人材の養成にあると考えます。この意味で、本検定試験はこれまでの簿記検定とは異なる哲学と方法を取っています。「財務会計論」と「財務諸表分析」を別個の試験として構築しているはこのためです。

金融化社会では誰にも資本の運動をとらえる会計的素養・能力が求められます。これを身に付けるには二つのアプローチがあります。一つは、3・2・1級と段階を追って学習を進めていく従来から取られてきた方法すなわち簿記技能の積み重ね、いわば“内から会計技能の高度化”を目指すアプローチがあります。これが「財務会計論」の検定で、簿記検定の延長にあります。もう一つは、いわば“外から会計知識の習得”を目指す方法で、我々が航空写真により現実の様子を知ることができるように、財務諸表を鳥瞰することにより、会計的素養むしろ感覚を身に付けるアプローチであります。これが「財務諸表分析」の検定目的です。これにより、従来の3・2級等と進み、ともすれば今の位置を見失いがちな学習に対して具体的目標を示すこともできるものと考えます。つまり、入口、途中、到達のどの段階でも利用されることを考えています。

このような検定試験は、時代の変化つまり会計制度の改正に対応していかなければなりません。本検定試験が最初から連結財務諸表やキャッシュ・フロー計算書を対象にしているのはこのためです。従来の全商簿記検定の枠内ですと、高度専門会計職業人の育成を意図していると理解してください。これを強く意識しているのが「財務会計論」です。

本検定試験は社会的貢献も考えています。典型的には卒業生の再教育です。時代が動いている中、絶えざる会計知識の更新は必須であります。これに対応し、会計技能の現代化を助け、再教育に応じることも社会的存在としてのこれからの商業高校ないし簿記会計に関わる教員に求められる姿と理解しております。このような社会的貢献は、卒業生に留まらず、広く社会人も対象としていることは勿論です。

簿記教育の重要性にも関わらず、現実の商業高校の姿として総合高校化が図られております。このような教育制度改革の流れにあっても、世が金融化されればされるほど、会計的素養は必須になります。この状況の中、“外から”会計に興味を持ち、ここから、会計技能習得の必要性に目覚める人材を掘り起こすことは、商業簿記教育の将来に展望を開くものと考えます。財務諸表分析はこの側面も意識しています。

財務会計論は、高度な会計的技能の取得を目指し、財務諸表分析は、会計的感覚を身に付けることを意図しております。本試験は、現役商業高校生が現実の会計の姿に触れる機会を作るものに留まらず、とくに財務諸表分析を通じ、総合高校の生徒のみならず一般の高校生も会計に興味を持つ機会を作り、さらに、商業高校卒業生は言うに及ばず、広く一般の人々の会計技能の習得に役立とうとするものであります。いわゆる高大連携の視点に立てば、大学教育における会計学習の道標として活用できるものでもあります。

会計に興味を持つ多くの皆さんのチャレンジをお待ちしています。